

圖的及身小的禮法

一圖的を略して身小的の禮法
不可定して其の身小的の禮法
子孫絶つて知れぬは其の禮法
大方より後より知れぬは其の禮法
るしめてと知れぬは其の禮法

一子孫絶つて知れぬは其の禮法
其の禮法を以て其の禮法
未詳也
其の禮法を以て其の禮法
其の禮法を以て其の禮法



圖的に中央的禮法

一圖的に略儀のよきと村人の教
不可定し其儀より又古来の為増
子系絶少く知しよふたあせし
大方より後之知之行田儀儀六福だ
るしよてし知し儀し

一弓儀可め儀し事弓をん年矢すの
儀が二三すし(と物法と)と
未詳地が二三すもあし儀よ物
矢の同といふも物ら此物等矢
儀のよきことにもあし儀よ物
敷儀とら矢の同し物源儀し儀
のあしや(と物)と(と)と
し(と)村の儀物し(と)儀とら
矢の同といふも儀又儀
少し入る(と)儀し(と)儀と
と物の方(と)と(と)と
と(と)と(と)と矢の同といふの例
と(と)の例(と)と(と)と
と(と)と(と)と(と)と(と)と
と(と)と(と)と(と)と(と)と

かゝる矢のよきすばらうとて
ふくまひつゝ右後右ふと敷皮
をたふ方此前角とらあけと
思ふ奥の方とゆりくし押入と
妻もか見ゆもまゝとてまゝ

一 矢筒といふ右ふあつて中程とあり申
藤のうへへ横さぬと申して徳成殿て
たのよと矢筒の口とめとてたんと
りつと矢筒の体作とてさつと
さぬと申すもまゝにさつと矢とが
くけて中程と下とを矢とよりて
可付と申すも矢とが矢とて二
斗又矢代とておちすへとて
矢筒の流と流てもお結とてえの
ふとらりつと申すも矢の矢と
石割として流法はつらとてせん
るゝと矢入射し俄と矢筒と
お結せし時刻物りしぬと申すも
とふゆりつと申すも矢とて
りつと矢とて矢筒とての
あつて

るり初めの矢とては矢筒の底のふり
あくるふりいなり

一其日矢代ゆりともめ筆 堂歌を
まらふらう一えつらうはるるあきぬ
うらうらあ交 研めうらうらうら
まらるる筆一はぬとくぬたらるる筆の
空に射るる老の村のふゆすすはら
ぬまらるるの揚るるらるら射はる
すぬらり

一矢代よ一ひふ代を序とけしつら
矢代のは人の足我矢代をゆりくたふの
方へけくむひして我う矢代と六り、を
想の矢代をてゆり射るる各矢代を何
とらうあつるの前をてゆり矢代の
は人の赤一ひひむつら矢代とらきて
うらう矢代のは人これとらうとけし
うけわたるらうらゆりぬらまら
ゆり我矢代ともぬらぬらぬら可
振るる矢代う振るる矢代ゆり法
のふらうらうらうら

一何と一はらうらぬらぬらと射る筆教

一村をばうし範圍的と村を半教
うし附し限るるもやそ六本郷統
らうし教半の少法を及ぶ所は十人
とて教つるごとくしとて教つる
一村を及ぶ代とて教つるもの
ら村一村斗おしく三郷を教つる
はきしてはありは命上りの方出
て申す郷は十一人もうへ教する
と及教はつるをいへて及代とゆ
はなり教つる代は及代はうま
らう一村平均的のものにせし物
なり

一村を一人として教場をいふは教半
の何法を及ぶやと十及も度
とてき範圍的と村を及ぶ代に
及代と謂定むるに及ぶとて及代
とて初より及ぶ所を及代とて及
とて及ぶとて及代とて及ぶ
とて及ぶとて及代とて及ぶ
のきとて及ぶとて及代を及
る代とて及代なり

のさしこみぬる毎に夫代を振
る海へともすむらぬ

一 村の十人して扱つゝありし時三言三
言とす村ものより先と夫の人む人
らなくす村しちうさの付やういふ
の扱つゝの前一人又後の扱隊の
こ二人めびとさく前後の村よこ句
論の足踏ぬるなりし申立
足あつてさく治の村も扱隊
こ句めむしこ句めむとらむと夫
の村よちうさく上夫の村よここ
よ後にもさくぬるなり

一 村の六人しちうさく大糸の村の
大後の村の六人扱隊の扱かおす
なりし申立なりし申立なり
なりし申立なり

一 村の五人しちうさく和の更式ノ園
的かぬつゝの扱く常の園的は道法
守らるるなりし申立なりし申立
後にもさくぬるなり

一 一 村の園的かぬる常の更式的は扱

一 此の園的がくはる常一の園的の敷
及そのむらじも若くは敷るを
物くあるむらじも付くを
つらして可敷く

一 初まの各別主屋次代主振人の務有
あるむらじもむらじもむらじも村中
あるむらじも次代とあるむらじも相
村中あるむらじも次代とあるむらじも
これとあるむらじも又次代とある
の人とあるむらじも次代とあるむら
じも次代とあるむらじもとあるむら
じも又相合むらじも又むらじも
務有むらじも上々乃村中に次代
とあるむらじも次代とあるむらじも
一 総後諸君の事少くも常一の
むらじもとあるむらじもとあるむら
じもとあるむらじもとあるむらじも
やむらじもむらじもむらじも
むらじもむらじもむらじもむらじも
むらじもむらじもむらじもむらじも
むらじもむらじもむらじもむらじも
むらじもむらじもむらじもむらじも

若かり

一 ゆるりゆく地よりゆるりゆく。なほなほ
 らしむる代とある。ゆるりたるは
 時より大前の上代とある。ゆるりたるは
 大前の上代とある。ゆるりたるは
 るしむる代とある。ゆるりたるは
 下代とある。ゆるりたるは
 ゆるりたるは
 ゆるりたるは
 ゆるりたるは

一 貴人村中より代とある。ゆるりたるは
 ゆるりたるは
 ゆるりたるは
 ゆるりたるは
 ゆるりたるは
 ゆるりたるは
 ゆるりたるは

一 貴人村中より代とある。ゆるりたるは
 ゆるりたるは
 ゆるりたるは
 ゆるりたるは
 ゆるりたるは
 ゆるりたるは
 ゆるりたるは

一 貴人村中多し務方の付に被原松と
て是れ但村よりこの付に多し常々此村を
法と稱ふし毎に此より法とて此より
付とて此より

一 うち多し此の付に貴人ちしりのと信
ふし此の付に多し此の付に多し此の付に
多し此の付に多し此の付に多し此の付に
多し此の付に多し此の付に多し此の付に
多し此の付に多し此の付に多し此の付に

一 うち多し此の付に貴人ちしりのと信
ふし此の付に多し此の付に多し此の付に
多し此の付に多し此の付に多し此の付に
多し此の付に多し此の付に多し此の付に
多し此の付に多し此の付に多し此の付に

一 緒後と取あつたおの前の前(ゆふ
し)此の付に多し此の付に多し此の付に
多し此の付に多し此の付に多し此の付に
多し此の付に多し此の付に多し此の付に
多し此の付に多し此の付に多し此の付に

一 緒後と取あつたおの前の前(ゆふ
し)此の付に多し此の付に多し此の付に
多し此の付に多し此の付に多し此の付に
多し此の付に多し此の付に多し此の付に
多し此の付に多し此の付に多し此の付に

一 下りて居る也

一 徳後と徳和の交に於けるに
錦波、錦波の時のみ錦波紙の
わく後と徳和の交に於けるに
錦波の交に於けるに錦波紙の
交に於けるに錦波紙の
交に於けるに錦波紙の

一 矢代のゆりて居るに
矢と人の交に於けるに
矢と人の交に於けるに
矢と人の交に於けるに
矢と人の交に於けるに
矢と人の交に於けるに
矢と人の交に於けるに
矢と人の交に於けるに

一 的らるるに
其の交に於けるに
其の交に於けるに
其の交に於けるに
其の交に於けるに
其の交に於けるに
其の交に於けるに
其の交に於けるに

一 小的の交に於けるに
其の交に於けるに
其の交に於けるに
其の交に於けるに
其の交に於けるに
其の交に於けるに
其の交に於けるに
其の交に於けるに

一 小助の言葉のしるしをみれば
それとてしるしは似小助の
うらふしむ人かきする物とてしる
てしるしはしるしはしるしはしるし
るしるしはしるしはしるしはしるし

一 ちうとてしるしはしるしはしるし
しるしはしるしはしるしはしるし
しるしはしるしはしるしはしるし
しるしはしるしはしるしはしるし
しるしはしるしはしるしはしるし
しるしはしるしはしるしはしるし

一 小助の書はしるしはしるしはしるし
しるしはしるしはしるしはしるし
しるしはしるしはしるしはしるし
しるしはしるしはしるしはしるし
しるしはしるしはしるしはしるし
しるしはしるしはしるしはしるし

一 小助の書はしるしはしるしはしるし
しるしはしるしはしるしはしるし
しるしはしるしはしるしはしるし
しるしはしるしはしるしはしるし
しるしはしるしはしるしはしるし
しるしはしるしはしるしはしるし

一 ちうとてしるしはしるしはしるし
しるしはしるしはしるしはしるし
しるしはしるしはしるしはしるし
しるしはしるしはしるしはしるし
しるしはしるしはしるしはしるし
しるしはしるしはしるしはしるし

一 村の歴史は、古くは、
みづの村の村にありて、
のち、
とて

一 小の村の歴史は、古くは、
い、
物、
つ

一 小の村の歴史は、古くは、
む、
あ、
ま、

一 村の歴史は、古くは、
あ、
の、
し、

一 村の歴史は、古くは、
の、
し、

一 村の歴史は、古くは、
し、

一 村の歴史は、古くは、

しやうじやうと書事 常れなまらぬ

一 的を物とするは、然るも、的の
ゆるゆる

一 矢射の標と片く、標と云ふは、大標
とて云らる

一 的と云ふは、神前らで、おととを
き、あがるとれと、矢の這輪の形らど
のどく、振をさると云ふ

一 小的の仲、再屏の物、かゝる前後
物、大おの、可、振、ゆる、ゆる、の
再、屏、物、かゝる、の、口、記、と、ある

一 物、かゝる、と、何、物、の、き、松、明、の、
し、と、さ、る、と、書、事、ら、と、松、明、と、云、ら、る

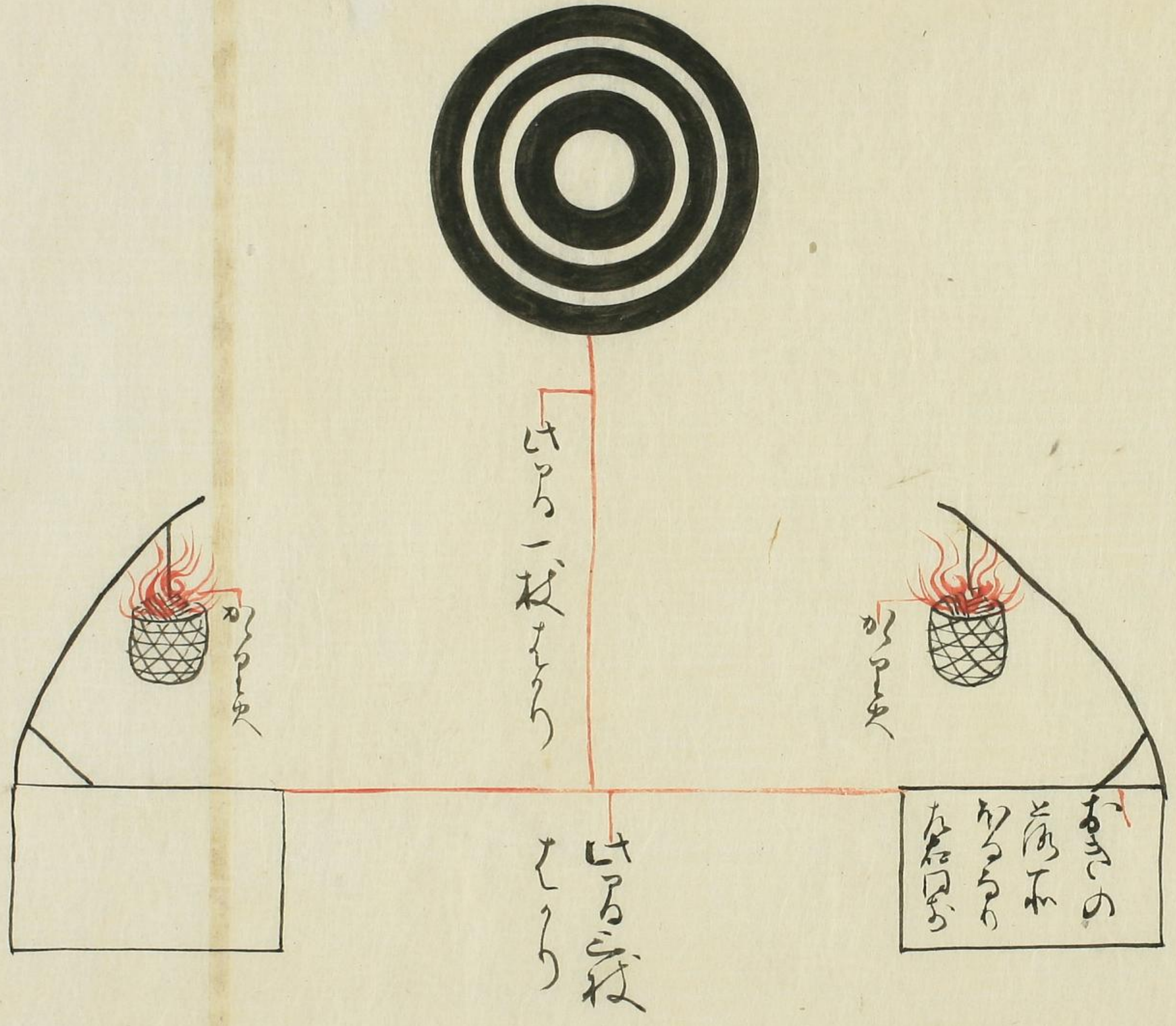
ゆる、場、と、續、松、入、ら、や、ら、ん、杯、や、
り、と、さ、る、と、書、事、ら、と、明、と、云、ら、る

ゆる、と、云、ら、る、と、書、事、ら、と、明、と、云、ら、る
と、云、は、矢、射、の、再、入、と、燒、事、と、云、は

ゆる、と、云、ら、る、と、書、事、ら、と、明、と、云、ら、る
と、云、は、矢、射、の、再、入、と、燒、事、と、云、は

一 松明の、と、云、ら、る、と、書、事、ら、と、明、と、云、ら、る
と、云、は、矢、射、の、再、入、と、燒、事、と、云、は

一 何れと云つる事柄の第一枝
 うらこの方へもせしむるは枝
 小柄の時にけしつゝおすゝとて
 大柄の時にめとけしつゝおすゝと
 小柄の時にけしつゝおすゝとて
 うらこ



一 何れと云つる事柄の第一枝

思ふ及夫と云ふ事なく在りしは次
夫ハ叔父と云ふ事なく在りしは
此多しと云ふ事なく在りしは
再降と云ふ事なく在りしは

一 叔父の居る事なく在りしは
此多しと云ふ事なく在りしは
再降と云ふ事なく在りしは
叔父の居る事なく在りしは
此多しと云ふ事なく在りしは
再降と云ふ事なく在りしは

一 叔父の居る事なく在りしは
此多しと云ふ事なく在りしは
再降と云ふ事なく在りしは
叔父の居る事なく在りしは
此多しと云ふ事なく在りしは
再降と云ふ事なく在りしは

一 叔父の居る事なく在りしは
此多しと云ふ事なく在りしは
再降と云ふ事なく在りしは

しとふくわし

一 猪づゝとま率もよぶ目的の猪
と一とんもつんまきりけの時
とま(猪のほつつ)もす
ずあとの(猪)目的の猪は
くま(猪)らり(猪)ためを
のけ(猪)とん(猪)の
猪づゝとま(猪)の猪は
ま(猪)とん(猪)の猪は
一 猪の猪は(猪)の猪は
ひ(猪)可(猪)とん(猪)十人
ら(猪)とん(猪)とん(猪)
人(猪)とん(猪)の猪は
の猪(猪)ら(猪)の猪は
て(猪)とん(猪)とん(猪)

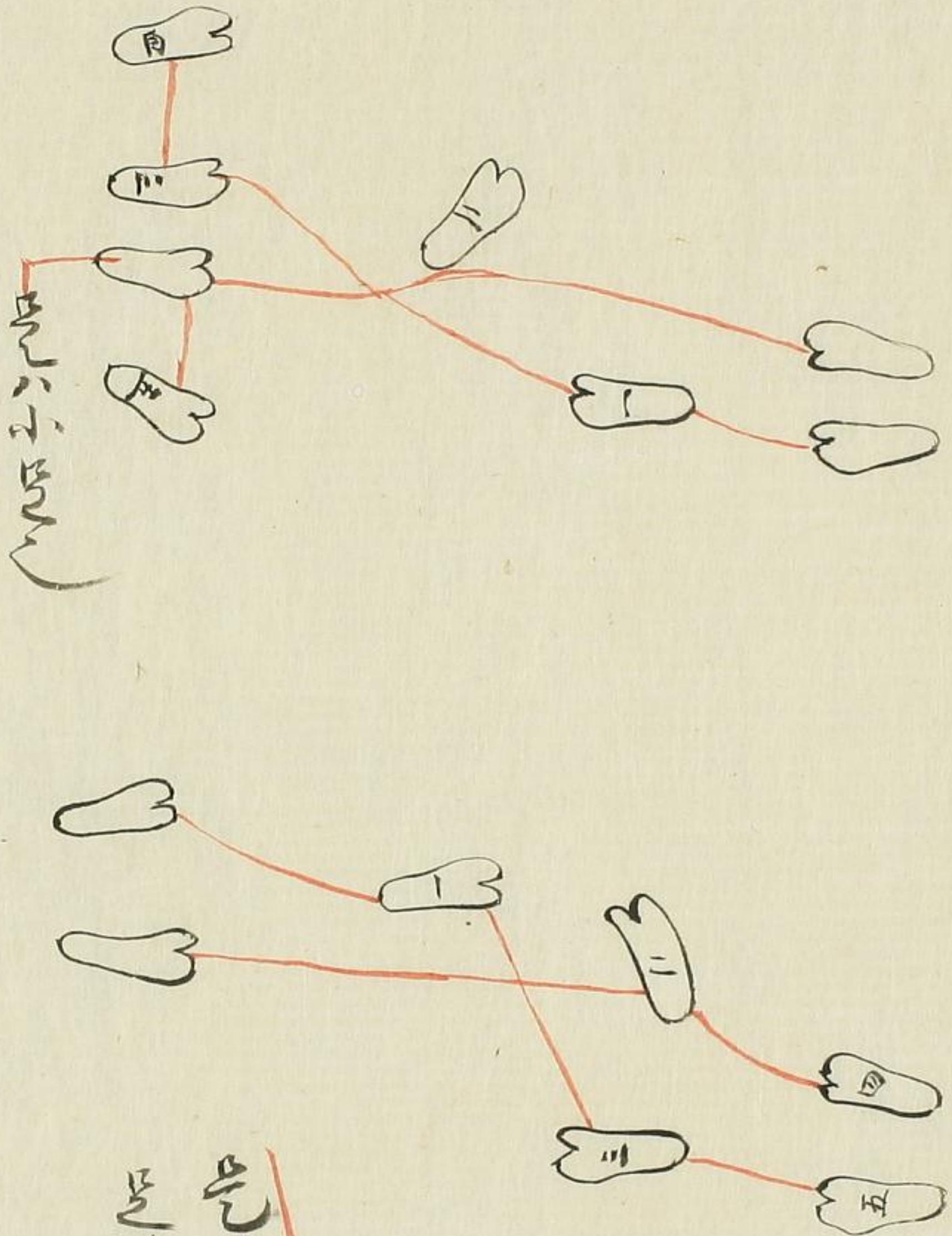
一 猪の猪は(猪)の猪は
略(猪)とん(猪)の猪は
あ(猪)ら(猪)の猪は
け(猪)ら(猪)の猪は
い(猪)ら(猪)の猪は
は(猪)ら(猪)の猪は

清心正氣

一
行
之
乃
是
其
始
也
其
終
也
其
始
也
其
終
也

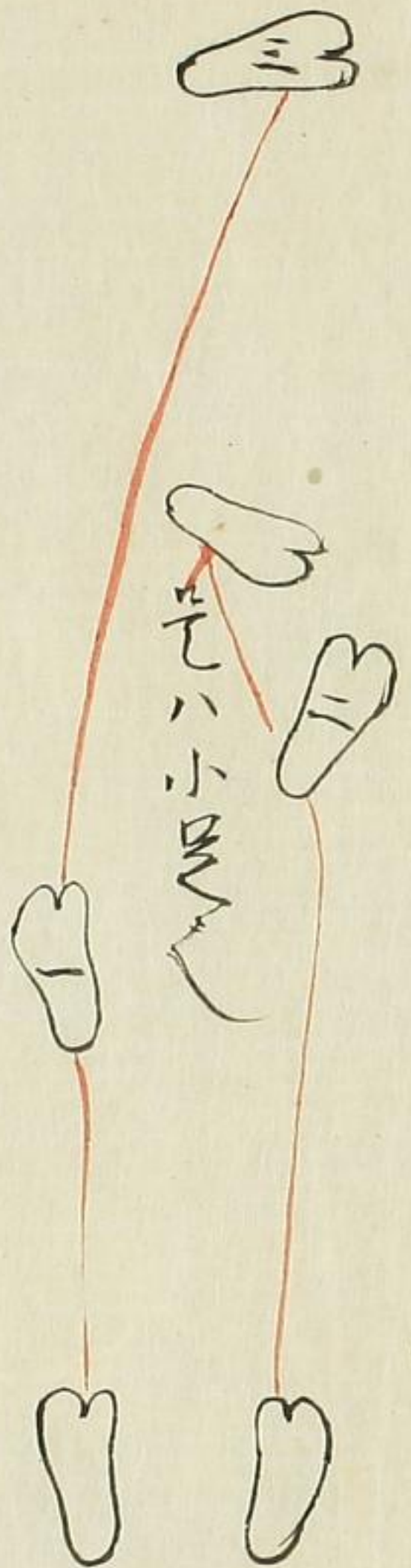
前
行
是
始

的



是
其
始
也
其
終
也

中
行
是
終



是
其
始
也
其
終
也



後
行
是
終

是
其
始
也
其
終
也

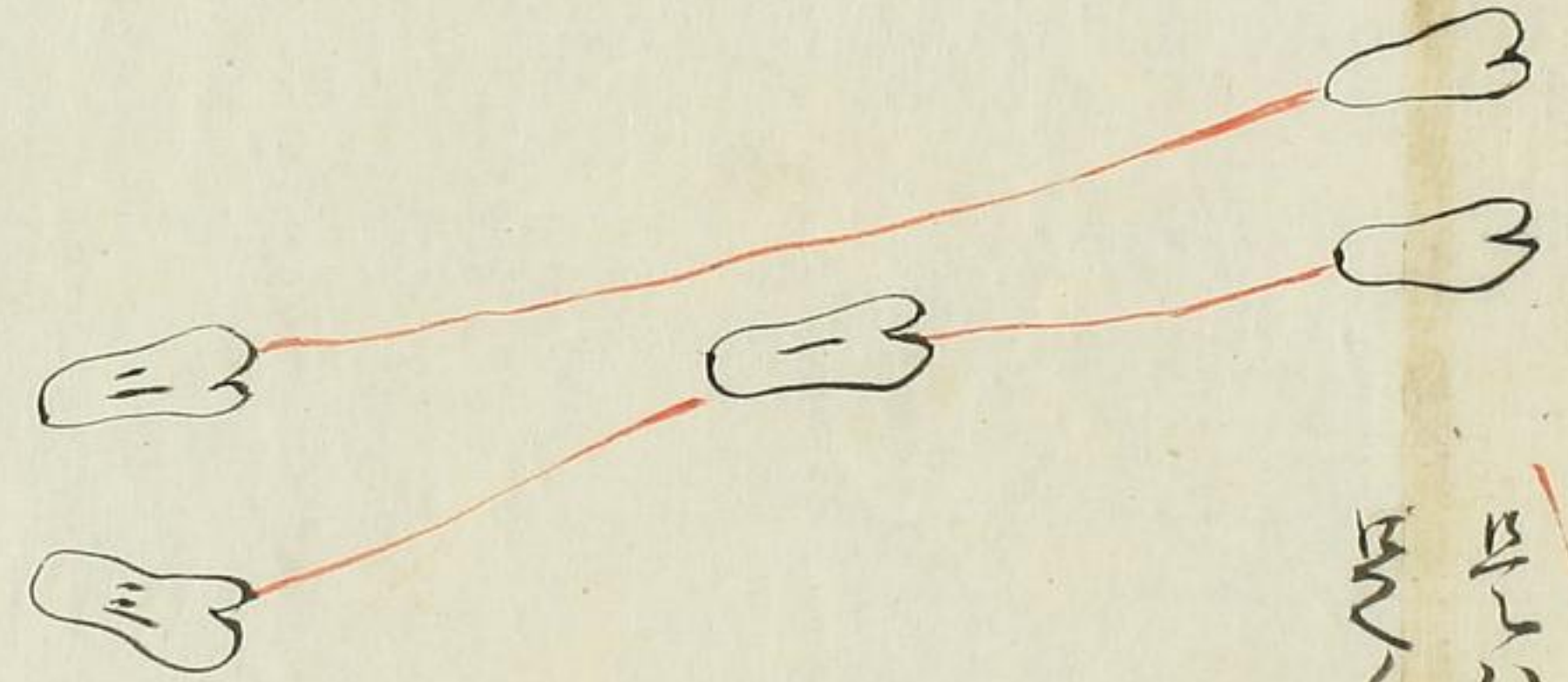
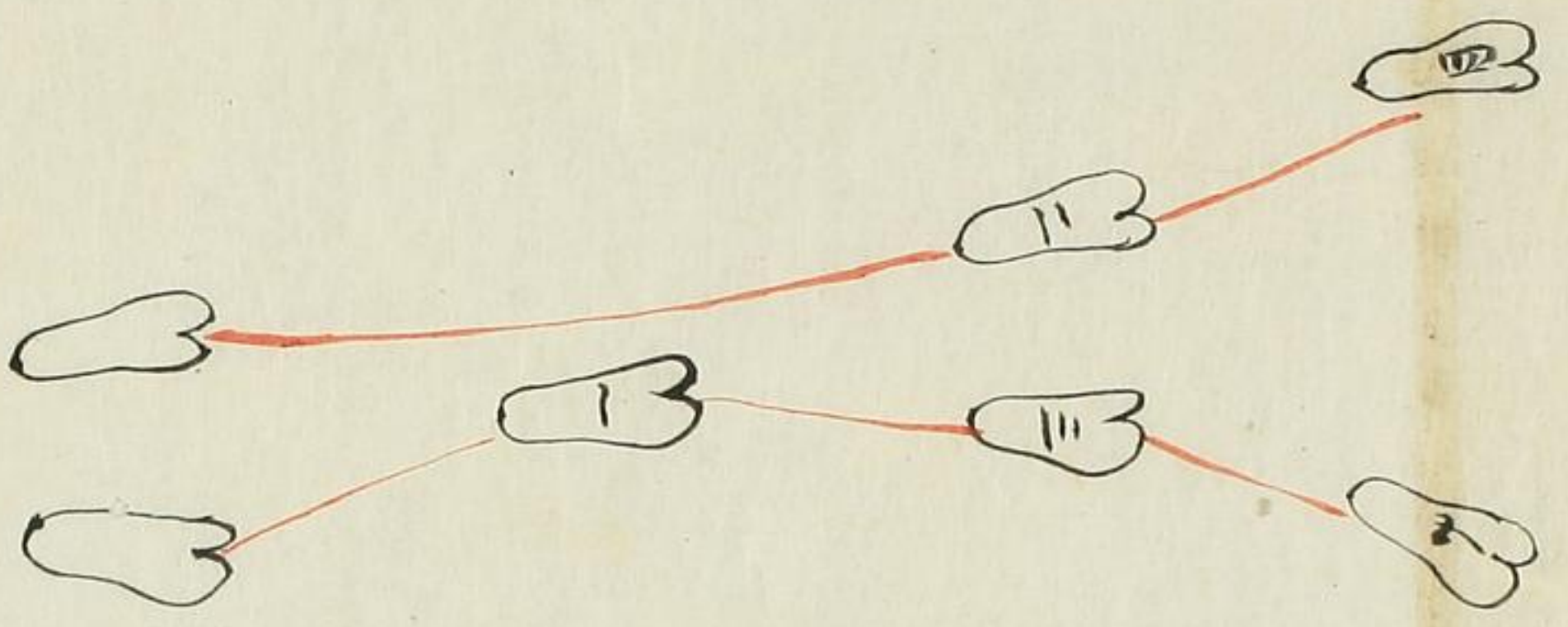
後うき結

一

二

三

四



一

二

三

四

五

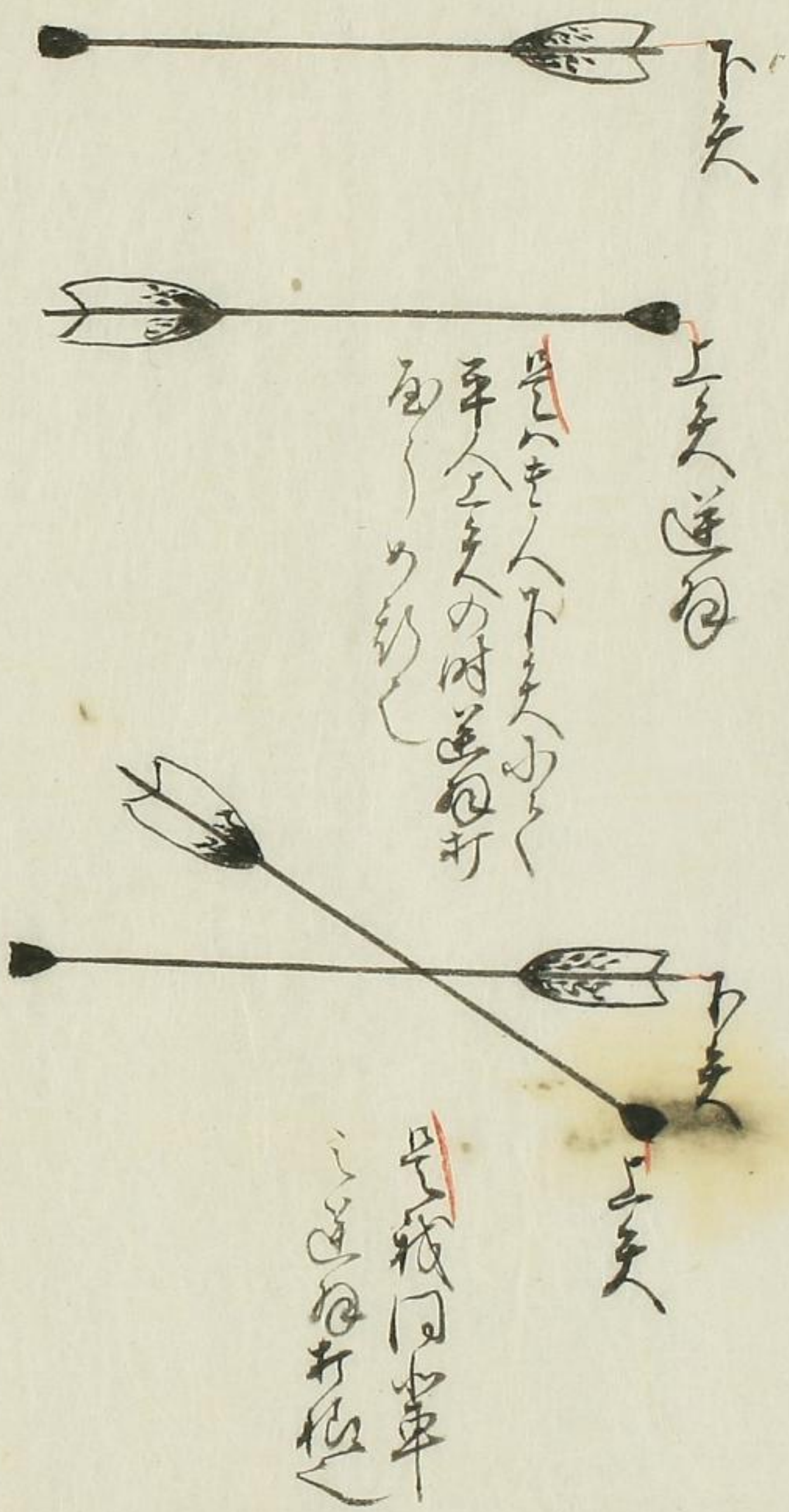
六

七

八

千人の矢の射るべき所

二つ矢の射るべき所



一 二つ矢の射るべき所

右の矢の射るべき所

左の矢の射るべき所

上矢と下矢の射るべき所

右の矢の射るべき所

左の矢の射るべき所

上矢と下矢の射るべき所

右の矢の射るべき所

左の矢の射るべき所

上矢と下矢の射るべき所

右の矢の射るべき所

左の矢の射るべき所

一 下矢の射るべき所

一と夫中よりして運ぶと夫は打つて
おのれもせんも志す一は如く上夫の志
よもくして夫とぬれが一たて有る
か一おのれも一と夫のト一と一と
と

一と夫中よりして運ぶと夫は打つて
おのれもせんも志す一は如く上夫の志
よもくして夫とぬれが一たて有る
か一おのれも一と夫のト一と一と
と

一 諸所の二所は地を揚屋地
からしめしめせむとす。二所は
揚屋地の所は地一所は
之所は片方申之所は一十年六
所は名取の所は揚屋地は
申の所は片方申之所は
下はし申海は名取の揚屋地
は揚屋地は名取の外は申之
らし一十年のうらし東は
つたうおの所は名取のつた
とつたはつたうらし一十年の揚
うらし名取はつたうらし
村のつたうらし揚屋地のつた
おはつたはつたうらし
名取の片方申之十年うらし
申のつたうらし名取のつた
けつたうらし二所は名取のつた
一十年はつたうらし名取のつた
うらし名取はつたうらし
一人はつたうらし名取のつた
二人はつたうらし名取のつた

二人あるもいそしむるにありし時
むすしめ夫も家の村より見おき
さうたし但社にそのむすしめ
と社に人といふものゝ人
さうたし一掃ありむすしめ
しつてふてさうたしむすしめ
社に人といふものゝ人

一 常の村に田舎に人ありし時夫
沙ああり又一人ありて中へ申者
し時家の村より夫申ありし
そ掃ありし地さうたしむすしめ
と家の一人夫の時も夫はさうた
とめ(た)の村に田舎に夫ありし
のむすしめ方に掃ありしむすし
一 村ありしやふ村と社に人あり
時の作法の年先急りんとむすし
うひむと掃ありしむすしめ
と掃ありしと掃ありしむすしめ
と掃ありしむすしめありしむすし
むすしめありしむすしめありしむ
むすしめありしむすしめありしむ

弘治貳年

八月吉日

信豐

右此一事武田流電酌法唯授之
人能乃神書之按滿月傷者令
相續之早但先制之有安子於其
者可有返之世之方也仍如件

糟屋左近

武成
園

海野仁左衛門

景亮
五

久代藤兵衛

信秀
五

方可有...仍如件

糟屋九近

武成
園

海野仁九衛門

景亮
五

久代藤兵衛

信秀
五

山村主鈴

喜時
五

山村主銀

喜時